

2

Sustainability

Hondaのサステナビリティ

2 Hondaのサステナビリティ

> 基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダーエンゲージメント	07
Hondaの取り組みとSDGs	10
外部からの評価	13

基本的な考え方

「Honda フィロソフィー」は、「人間尊重」「三つの喜び」から成る“基本理念”と、“社是”“運営方針”で構成されており、Honda グループすべての企業と、そこで働くすべての従業員の価値観として共有され、企業経営・事業活動と、従業員の行動や判断の基準となっています。

Hondaは、環境破壊・資源エネルギーの枯渇・食料問題など、地球規模での課題に世界が直面していることを認識し、現在の事業をさらに発展・進化させていくと同時に、こうした地球規模的課題解決に挑戦していくという考え方のもと、企業経営・事業活動を行っています。

Hondaのグローバルブランドスローガンである「The Power of Dreams」は、私たちが突き進む原動力がつねに「Hondaで働く一人ひとりの夢」であることを表現しています。「夢」を原動力とした私たちの創造力が、お客様にお届けする提供価値を生み出します。それが世界中の人々を動かし、心を震わせ、それぞれが夢に向かって一歩踏み出す力となっています。そして夢に向かって動き出した人々の力が周りに波及し、新たなつながりが生まれ、社会全体に夢が拡がっていきます。

Hondaはいつの時代にも、世界中で紡がれる無限の「夢」の力を信じ、その実現を後押しする「パワー」でありたいと考えています。このような未来への想いを込めて、「How we move you.」というステートメントを「The Power of Dreams」のあとに続く副文として追加しています。

具体的な企業経営・事業活動においては、商品・サービスを通した価値の提供によってステークホルダーの期待・要請に応えるとともに、環境や社会に対する影響への配慮など、企業の社会的責任を果たすことや、社会課題の解決を通して社会の持続可能性に貢献することが重要です。

Hondaは、これらを実践するために経済的価値を犠牲にするというトレードオフの考え方ではなく、「社会的価値を追求することで経済的価値を拡大し、企業としての新たな成長軌道を描いていく」というトレードオンの思想のもと、取り組みを強化しています。

ひとを動かし、心を動かし、世界中に夢を拡げていくHondaの企業経営・事業活動はサステナビリティに資するものであり、将来にわたり、人々や社会から「存在を期待される企業」であり続けることをめざします。

HONDA
The Power of Dreams

How we move you.
CREATE ▶ TRANSCEND, AUGMENT

Honda フィロソフィー
<https://global.honda/jp/brand/philosophy/>

2 Hondaのサステナビリティ

基本的な考え方	04
> サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダー エンゲージメント	07
Hondaの取り組みと SDGs	10
外部からの評価	13

サステナビリティマネジメント体制

Hondaは、「基本理念」、「社是」および「運営方針」の3つから構成されている「Honda フィロソフィー」に根ざした企業活動を推進しています。

Hondaでは、長期経営方針や中期経営計画は経営会議（議長：取締役 代表執行役社長 最高経営責任者）や取締役会で承認・決議しています。気候変動問題への対応を含む最終的な監督機関は取締役会であり、経営会議では取締役会の決議事項などについて事前審議を行うとともに、取締役会から委譲された権限の範囲内で、経営の重要事項について審議しています。

また、事業活動にともなうさまざまなリスクへ対応し、社会とHondaの永続的な発展に向けた事業運営の監督を行う必要性から、気候変動問題への対応を含む「ESG・サステナビリティ」を必要スキルの一つとして定め、取締役を選任しています。

各本部・統括部や各子会社では、全社の長期経営方針や中期経営計画に基づき、実行計画・施策を企画・推進し、重要事項については経営会議で適宜、報告・承認されています。「環境」「安全」「人材」「人権」「労働安全衛生」「品質」「サプライチェーン（購買・物流）」などの各領域では、会議体を設け、情報共有や議論などを通じてグローバルマネジメントを推進しています。また、気候変動問題への対応など、部門をまたぐ重要課題については経営メンバーが直接指揮を執る「部門横断タスクフォース」を組成し、実行計画・施策の検討提案を適宜行い、重要事項については経営会議で報告・承認されています。また、各領域に関するコンプライアンスやリスク管理については、当社の内部統制システム整備の基本方針に基づいて運用されています。（→ p.123）

これまで、内外環境認識を踏まえた全社の方向性と、コーポレートとして取り組むべき重要課題を合意することを目的として設定された「コーポレート統合戦略会議」にて、サステナビリティ課題への方針や取り組みの議論・検討を行ってきました。また、環境安全領域の推進強化として、「世界環境安全戦略会議」を設定していました。

2023年度には、全社目標であるKGI（監督側指標）およびKPI（執行側指標）を明確にし、スピードに提供価値へと結び付けることのできる企業運営をめざして、経営オペレーションの高度化を行いました。各本部・統括部、各子会社および「部門横断タスクフォース」にて、実行計画・施策の検討提案を適宜行い、重要事項については経営会議で報告・承認する体制としました。これにともない、年1回を基本に開催していた「コーポレート統合戦略会議」および「世界環境安全戦略会議」は発展的解消しました。

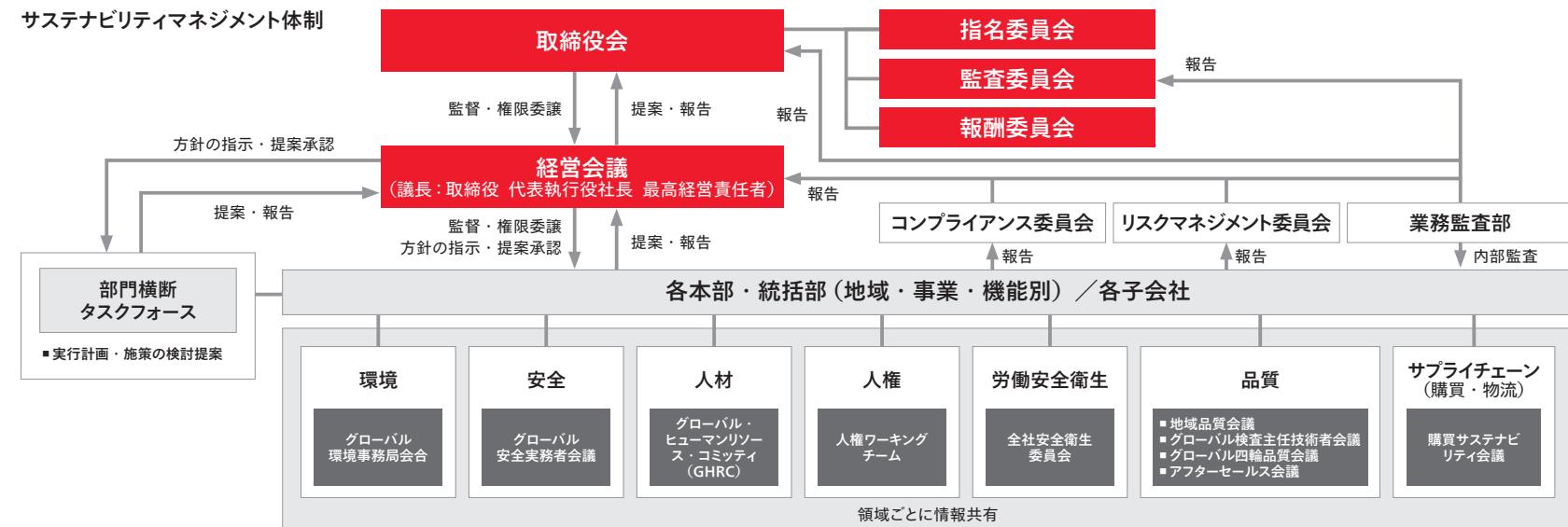
取締役会が監督責任を有するKGIや経営会議が執行責任を有するKPIは、取締役会や経営会議が進捗を定期的にモニタリングすることで、経営ガバナンスの強化を図っています。財務指標および非財務指標に連動した役員報酬制度については有価証券報告書「4 コーポレート・ガバナンスの状況等（4）役員の報酬等」をご参照ください。

有価証券報告書 <https://global.honda/jp/investors/library/report.html>

2 Hondaのサステナビリティ

基本的な考え方	04
> サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダー エンゲージメント	07
Hondaの取り組みと SDGs	10
外部からの評価	13

サステナビリティマネジメント体制



サステナビリティ関連会議体の概要

領域	会議体	内容
環境	グローバル環境事務局会合	国際動向と経営議論を踏まえた当社グループの最新の取り組み方針の共有や、中長期目標達成に向けたグローバル課題について議論する場。
安全	グローバル安全実務者会議	新安全目標に向けた推進内容を共有し、交通事故死者ゼロの実現に向けた取り組みの強化について、地域間の安全課題を議論する場。
人材	グローバル・ヒューマンリソース・コミッティ（GHRC）	世界各国域の人事責任者が集まり、各地域特有の人事課題に関する議論や、グローバルでの人事戦略のあり方・全社展開の進め方について整合を図る場。
人権	人権ワーキングチーム	当社グループ国内外事業所やサプライヤーなどに向けたアセスメントを含む人権デュー・ディリジェンスの対応や啓発活動を推進し、取り組みの強化や従業員の行動定着化を図る場。
労働安全衛生	全社安全衛生委員会	「安全なくして生産なし」の安全衛生基本理念のもと、安全・衛生に関する全社方針の策定および実行を指示し、安全衛生領域のガバナンス強化を図る場。
品質関連	二輪・パワープロダクツ 地域品質会議	全社方針書で定めた品質目標に基づき課題形成を行い、これに地域別の課題を加え、対応施策を定めた内容について、その管理方法と情報共有を定期的に図る場。
	四輪 グローバル検査主任技術者会議 グローバル四輪品質会議	
品質 アフター セールス 領域	二輪 四輪 アフターセールス会議	本社と各地域の責任者が方針や施策をグローバルで共有し、グローバルで高位平準化することを目的とする場。
	パワープロダクツ 購買サステナビリティ会議	グローバルサプライチェーン全体で低炭素への取り組みや人権やコンプライアンスの取り組みを強化するために、グローバルで統一した施策の展開方針や達成手段について、各地域の実務担当者が議論・整合を図る場。
サプライチェーン (購買・物流)	購買サステナビリティ会議	

2 Hondaのサステナビリティ

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
> ステークホルダー エンゲージメント	07
Hondaの取り組みと SDGs	10
外部からの評価	13

ステークホルダーエンゲージメント

基本的な考え方

Hondaが社会から「存在を期待される企業」となるためには、コミュニケーション・サイクルを実践していくことが必要です。それは、① Hondaがどのような価値を社会に提供しようとしているのかを適宜・的確に伝え、② 多様なステークホルダーのHondaに対する要請や期待を把握・理解し、③ 具体的な施策に落とし込み、④ その評価を受ける、という仕組みです。

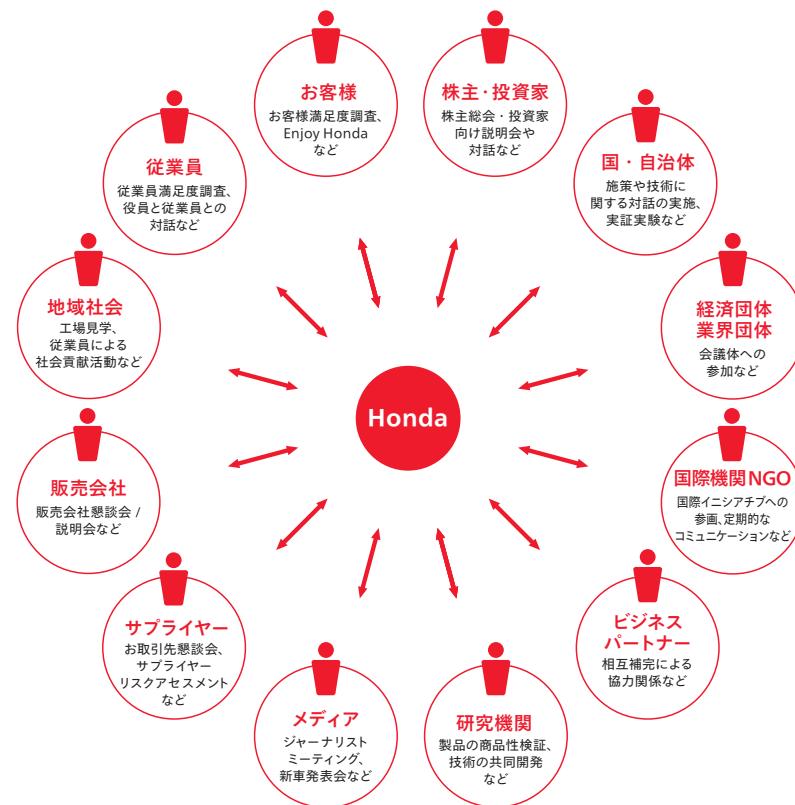
とりわけ近年は、事業の規模拡大やグローバル化に加え、ITの急速な普及によって、企業活動が社会に及ぼす、また社会が企業に及ぼす影響の大きさや範囲が広がっており、そのスピードも加速しています。そんななか、「ステークホルダーとの対話」は、Hondaの取り組みに対するより正しい理解につながるとともに、社会環境の変化やリスクを把握できる有益な手段でもあると考えています。

こうした認識のもと、Hondaはグローバルで、さまざまな機会を通じて対話を実施しています。この対話は、Hondaのステークホルダーのなかでも、右図の主要なステークホルダー（Hondaの事業活動により影響を受ける、もしくはその行動が事業活動に影響を与えるもの）と、社内各部門との間で行っています。

例えば、株主・投資家とのエンゲージメントでは、シェアホルダー（株主）リレーションズと、インベスター（投資家）リレーションズを通じて、Hondaをより正しく理解していただけるよう対話を行っています。

また、代表的なESG評価機関やNGOとの対話から得られた意見をHondaが取り組むべき企業活動の検討に役立てています。

ステークホルダーエンゲージメント



2 Hondaのサステナビリティ

基本的な考え方 04

サステナビリティマネジメント
体制 05> ステークホルダー
エンゲージメント 07Hondaの取り組みと
SDGs 10

外部からの評価 13

ステークホルダーエンゲージメント

2023年度における取り組み例

ステークホルダー	主な対話方法	概要	頻度	窓口	参照
お客様	お客様満足度調査	世界中の顧客の満足のため、全世界の各販売店でサービスを受けたお客様に対し、顧客満足度についての調査を実施し、質の高いサービスオペレーション実施の改善活動を行っています。	毎年	顧客担当部門	→ p.64
株主・投資家	決算説明会 個別対話やカンファレンス 参加を通じた対話	決算概況や取り組みなどについて、国内・海外の投資家、アナリスト向けに同時通訳を活用したWeb会議を開催しています。また、時差などで会議に参加できない方に向け、Webサイトに日本語・英語で議事録を掲載しています。 経営状況、生産、研究開発、事業戦略の説明や、意見交換を実施しています。得られたご意見は貴重なフィードバックとして経営に活かしながら、さらなる企業価値の向上へつなげていきます。	年4回 通年	財務部門	https://global.honda/jp/investors/
サプライヤー	お取引先懇談会 事業計画懇談会・事業状況 共有会 サプライヤーへのESG調査 の実施	事業の方向性や取り組み内容をサプライヤーと共有する懇談会を、定期的に開催しています。全社方針や購買方針の発信とQCDE※などの各領域において、とくに優れた実績を残されたサプライヤーに対し、感謝賞を贈呈しています。懇談会終了後には、出席者に対しアンケートを実施し、満足度や次回イベントに活かすための改善点の把握を行い、さらなる充実に向けた活動を行っています。 中長期経営方針、事業計画、サステナビリティ案件（ESG／コンプライアンス・ガバナンス／リスクアセスメント）に関する情報を共有します。 「Hondaサプライヤーサステナビリティガイドライン」（→ p.101）に基づき、コンプライアンス違反や人権に関する負の影響・リスクの未然防止、環境負荷低減実現のため、主要サプライヤーへのESG調査を実施し、取り組み状況を確認しています。そのなかで問題発生の可能性が高い、または発生した場合、サプライヤーとコミュニケーションを図りながら改善に向けた活動を実施しています。	毎年 毎年	購買部門	→ p.114
経済団体・業界団体	業界団体活動への参画	業界団体活動を通じて社会の期待・要請を把握し、持続可能な事業環境を整え社会に貢献すべく、各種会議体に参画しています。	通年	渉外部門、ほか	
国際機関・NGO	国際イニシアチブへの参画	持続可能な社会の実現に向けた、期待・要請の把握と貢献をめざし、各種会議体に参画しています。	通年	サステナビリティ 企画部門、ほか	
地域社会	安全運転普及活動	Hondaは、グローバル安全スローガン「Safety for Everyone」を掲げ、事故を未然に防ぐために安全運転支援技術とともに「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として、運転者だけではなく、子どもから高齢者まで、交通社会に参加するすべての人を対象とした交通安全啓発活動に積極的に取り組み、現在では、世界43の国と地域で活動を行っています。	通年	安全運転普及 担当部門	→ p.37
	お身体の不自由な方々の 運転復帰	移動手段の選択肢を広げて、社会参画への格差を少なくしたいと考え、福祉車両（運転補助装置）を提供するとともに、運転復帰を望む方々の支援のため、地域での支援環境確立に向け、作業療法士をはじめとする方々のサポートをしています。	通年		→ p.42
	ビーチクリーン活動 里地里山保全活動	独自開発した機材を使用し、Hondaグループが地域の参加者とともにに行う砂浜の清掃活動。2006年より活動を開始して以来、これまでに全国各地の砂浜で活動を行い、実施回数は429回、回収したごみは総量約542tにのぼります。 東京都八王子市と活動協定を締結し、従業員とその家族が八王子市の「上川の里特別緑地保全地区」での里地里山保全活動を実施しています。	通年	社会貢献活動 推進部門	https://global.honda/jp/philanthropy/
国・自治体	被災地支援	2024年1月に発生した能登半島地震に対する社会全体の復旧へ向けた取り組みの現状を鑑みて、義援金3500万円の支援を行いました。また、発電機や高圧洗浄機など1500万円相当の物資提供を申し出しております。		社会貢献活動 推進部門、ほか	https://global.honda/jp/philanthropy/saigai/
従業員	従業員活性度測定	より働きやすく働きがいのある職場づくりのため、従業員の活性度の測定と結果に応じた取り組みを行っています。	毎年	人事部門	→ p.89

※ QCDE: Quality(品質)、Cost(コスト)、Delivery(調達)、Development(開発)、Environment(環境)の略。

2 Hondaのサステナビリティ

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
> ステークホルダー エンゲージメント	07
Hondaの取り組みと SDGs	10
外部からの評価	13

ステークホルダーエンゲージメント

外部団体との協働

Hondaは、グローバルなモビリティカンパニーとしての責任を果たしていくために、政府をはじめ経済団体や業界団体との対話を推進するとともに、外部団体との協働を行っています。日本においては、一般社団法人日本自動車工業会の副会長職や委員会委員長職、一般社団法人日本経済団体連合会の委員会委員長職、東京商工会議所の副会頭職や委員会委員長職を引き受けています。

また、二輪車の国際団体であるIMMA^{※1}では、委員会や作業部会の代表を務めています。さらにWEF^{※2}や、WBCSD^{※3}への加盟を通じて、サステナビリティに関するイニシアチブとも協力しています。

なお、Hondaの各地域における事業執行にあたっては、各地域が自立性を高め、迅速な意思決定を行うため、一定の範囲内で権限を委譲しています。政治献金^{※4}を行う場合は、各国の法令に基づき、社内の必要な手続きを経て行っています。

※ 1 IMMA:International Motorcycle Manufacturers Association (国際二輪車工業会) の略。

※ 2 WEF:World Economic Forum (世界経済フォーラム) の略。

※ 3 WBCSD:World Business Council for Sustainable Development (持続可能な開発のための世界経済人会議) の略。

※ 4 献金先：一般財団法人国民政治協会。政治献金額：2020年度：25百万円、2021年度：25百万円、2022年度：25百万円。なお、この支出は「Honda 贈収賄防止ガイドライン」に抵触しないことを確認しています。

2 Hondaのサステナビリティ

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダーエンゲージメント	07
> Hondaの取り組みとSDGs	10
外部からの評価	13

Hondaの取り組みとSDGs

SDGsへの貢献

Hondaはステークホルダーの皆様と喜びを共有するために、時代のニーズを先取りした世の中に役立つ独自の技術で、モビリティ社会の発展に貢献することをめざしています。

この考え方はSDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、目標12「つくる責任 つかう責任」や目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」の達成

最重要課題ごとの取り組み

最重要課題	Hondaの取り組み	達成に貢献するSDGs目標	
環境	気候変動・エネルギー問題への対応 カーボンニュートラルの取り組み (→ p.19) クリーンエネルギーの取り組み (→ p.23) 物流に関する取り組み (→ p.108) カーボンニュートラル実現に向けたサプライヤーとの取り組み (→ p.103)	カーボンフリー社会の実現をリードすることをめざし、原材料の調達から製品の使われ方まで配慮した企業活動を行っています。クルマの電動化や、モバイルバッテリー・水素エネルギーの活用をはじめとする気候変動を抑える施策は、食料生産安定化やエネルギー供給などにも貢献し、住みやすい街づくりにつながると考えています。	2 持続可能な 都市を つくる 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 11 まちづくりを まちづくり 13 経済成長に 持続可能性を もたらす 7 すべての人に エネルギーを もたらす 10 つくる責任 つかう責任
	電動化の推進 電動化の推進 (→ p.19)	製品の使用時における排出ガスクリーン化技術の開発や、生産時の排気・排水における有害物質削減を通じて、大気および水資源の保全を進めています。	3 すべての人に 機会と 成長を もたらす 13 経済成長に 持続可能性を もたらす
	クリーンな大気の保全 クリーンな大気の保全 (→ p.32)	資源調達段階から廃棄段階に至るまでに発生する、資源と廃棄におけるリスクゼロをめざし、社内外のステークホルダーと協力、連携しながら取り組みを進めています。リソースサーキュレーションの観点など最大限に環境に配慮した製品を供給し、廃棄物の削減に努めています。	11 まちづくりを まちづくり 12 つくる責任 つかう責任
	資源の効率利用と廃棄物 リソースサーキュレーションの取り組み (→ p.24) 廃棄物の取り組み (→ p.25)	工場での取水・排水の使用量および品質管理の徹底や、水のリサイクル・リユースを100%できる設備の導入を通じて、貴重な淡水の保全に貢献しています。また、将来の世代のために沿岸環境の改善、維持を支援する水資源保全基金を北米で運営しています。	6 安全な水と トイレを もたらす 14 海洋汚染を やめよう 15 積み重ねを やめよう
	水資源の保全 水資源の保全 (→ p.25)	製品と企業活動による環境負荷を最小化することが、生物多様性の保全に対する最大の貢献だと考えています。そこで「Honda生物多様性ガイドライン」において、環境技術の追求・企業活動での取り組み・地域共生の取り組みなどの重点取り組み領域を定め、積極的に推進しています。	17 パートナーシップ で目標を達成しよう
	生物多様性の保全 生物多様性の保全取り組み (→ p.28)	製品の設計・開発段階から自動車構成部品に含まれる化学物質を管理し、その削減に努めています。部品の材料および含有化学物質情報をサプライチェーンを通じて収集するシステムで、集計・管理しています。また、水質など環境に悪影響を及ぼすとされる重金属の削減を進めています。	3 すべての人に 機会と 成長を もたらす 6 安全な水とトイレ をもたらす
	化学物質の適切な管理と汚染防止 化学物質の管理と削減 (→ p.33)		

2 Hondaのサステナビリティ

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダー エンゲージメント	07
> Hondaの取り組みと SDGs	10
外部からの評価	13

Hondaの取り組みとSDGs

最重要課題ごとの取り組み

最重要課題			Hondaの取り組み	達成に貢献するSDGs目標
安全	交通事故死者数の大幅削減	「交通事故ゼロ社会」の実現に向けて(→p.37)	グローバル安全スローガン「Safety for Everyone」を掲げ、交通事故ゼロ社会の実現に向け、四輪車の安全運転支援技術「Honda SENSING」などの開発および普及・拡大、二輪車も含めた世界各国での交通安全教育への取り組みを通じ、ハード・ソフトの両面より事故に遭わない社会の実現をめざしています。	3 すべての人に 健康と福祉を 11 持続可能な 都市と居住地 9 素晴らしい 産業と技術を つくる
人材	優秀な人材の育成と確保 ダイバーシティの拡大	企業総合力の最大発揮に向けたダイバーシティの推進(→p.79) ダイバーシティの取り組み(→p.80)	個性が輝き、融合していくことを尊重し、「人材多様性の進化」を全社重点課題に位置付け、女性活躍拡大、LGBTQ+への理解と受容、ベテラン層の活躍機会拡大、障がい者雇用などに取り組んでいます。また、OJT※を基盤として人材育成を行うほか、グローバル・ジョブ・グレード制度を構築し、人材の最適配置をめざしています。	4 知の高い教育を みんなに 5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 繁栄のため の雇用機会 10 入や出の不平等 をなくす
人権	人権の尊重	人権(→p.66) Honda人権方針(→p.67)	フィロソフィーに「人間尊重」を掲げるとともに、行動規範においても「人権の尊重」として、人権を尊重する誠実で公平な企業であり続けるという方針を示しています。また、全社のリスクマネジメントの取り組みのなかでは、「人権」についても重要なリスクの一つと捉え、管理を行っています。	5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 繁栄のため の雇用機会 16 すべての人々 が、安全で 豊かな社会 をつくる
社会	労働安全	労働安全衛生の確保	「安全なくして生産なし」の安全基本理念のもとで、「すべての人が、心から安心して働くことができる」、そのような喜びのある職場環境の実現をめざしています。労働安全衛生マネジメントシステムを用いて、全社の安全衛生領域の監査を安全衛生監査委員会で行っています。	8 繁栄のため の雇用機会 12 つくる責任 つかう責任 ∞
顧客	製品品質の向上	お客様の安心と満足を目標に(→p.50)	「1%の不合格品を許さぬために120%の良品をめざして努力する」という創業者の言葉はつねにお客様の期待を超える製品づくりを志向してきたHondaのアイデンティティです。「安全」を軸とする商品としての信頼性向上はもちろん、桁違いに高い品質の商品を実現していきます。そのため、企画・開発から生産・販売・サービスに至る各段階での品質向上・改善を継続的に実践する「Hondaクオリティサイクル」を構築しています。	3 すべての人に 健康と福祉を 12 つくる責任 つかう責任 ∞
	モビリティ デバイドの解消	Hondaのサステナビリティ(→p.04)	移動手段の選択肢を広げて、社会参画への格差を少なくしたいと考え、福祉車両の提供を通じて身体の不自由な方々の活躍できる機会や場の拡大をサポートしています。これからも、Hondaの強みである二輪・四輪・パワープロダクツの幅広い事業と商品を活かしながら、技術とサービスで持続可能な移動手段を提供し、事業活動を通じて社会課題の解決に貢献していきます。	11 持続可能な 都市と居住地 17 パートナーシップ で目標を達成しよう

※ OJT: On the Job Training (オン・ザ・ジョブ・トレーニング) の略。

2 Hondaのサステナビリティ

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダー エンゲージメント	07
> Hondaの取り組みと SDGs	10
外部からの評価	13

Hondaの取り組みとSDGs

最重要課題ごとの取り組み

最重要課題	Hondaの取り組み	達成に貢献するSDGs目標	
ガバナンスと経済	サプライチェーン全体へのサステナビリティ活動の展開 サプライチェーンのサステナビリティ強化に向けて(→p.99) カーボンニュートラル実現に向けたサプライヤーとの取り組み(→p.103)	世界中すべてのサプライヤーとともに、環境、安全、人権、コントラクト・サプライヤー、社会的責任などに配慮し、サプライチェーン全体でサステナブルな社会の実現に取り組んでいます。「Hondaグリーン購買ガイドライン」「Hondaサプライヤーサステナビリティガイドライン」を発行して、それらに基づいた確認をしています。影響度の高いサプライヤーにはESG調査を実施しており、今後は、海外の購買拠点とも連携した拡大展開を図っていきます。	8 持続可能な 開発成長 13 生態系に 責任ある行動を 16 全ての人々 が安全で 豊かな 生活を 9 産業と 技術革新の 基盤をつくろう
	経営資源の有効活用 Hondaのサステナビリティ(→p.04)	多くの社会的課題が取りざたされているなか、経営上の優先課題を特定するには、バリューチェーンにおける機会や責任を理解することが欠かせません。社会の期待とお客様のニーズに応じて、既存事業の価値をどう転換・進化させていくのか、フォアキャスト・バックキャスト視点で考察し、新たな価値の創出をめざしています。	8 持続可能な 開発成長 12 つくる責任 つかう責任 Q
	コーポレートガバナンスの強化 コーポレートガバナンス(→p.123)	持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図ることで「存在を期待される企業」をめざしています。経営の最重要課題の一つとして、コーポレートガバナンスの充実に取り組んでいくとともに、社会からの信頼と共感をよりいっそう高めるために、企業情報の適切な開示により、今後も透明性の確保に努めています。	16 平和と公正を めぐる人に 12 つくる責任 つかう責任 Q
	開発途上国の経済発展への貢献 Hondaのサステナビリティ(→p.04)	すべての人がより効率の良い移動手段を獲得したことによるビジネスや学習の機会増大を通して、人生を豊かにすることをめざしています。海外展開にあたっては、輸出から現地生産・現地開発へとビジネスモデルを進化させ、新興国での生産・開発機能の強化を図るなど、雇用とOJTによる教育で地域に貢献していきます。	1 貧困を なくそう 4 読の高い教育を みんなに 17 パートナーシップ 目標を達成しよう

Hondaの取り組みとSDGs <https://global.honda/jp/sustainability/report/SDGs.html>

2 Hondaのサステナビリティ

基本的な考え方	04
サステナビリティマネジメント体制	05
ステークホルダー エンゲージメント	07
Hondaの取り組みと SDGs	10
> 外部からの評価	13

外部からの評価

企業の持続可能性の指標

「Dow Jones Sustainability World Index」の構成銘柄に選定

2023年12月、Hondaは社会的責任投資の代表的な指標であるDJSI※の評価において、全世界における自動車セクターの上位4社に入り、「Dow Jones Sustainability World Index」の構成銘柄に7年連続で選定されました。また同時に、アジア・太平洋地域の「Dow Jones Sustainability Asia/Pacific Index」の構成銘柄に9年連続で選ばれています。

DJSIは、米国のS&P ダウ・ジョーンズ・インデックス社によって運営されている投資指標です。経済・環境・社会の3つの側面から世界の主要上場企業のサステナビリティを評価し、総合的に優れた企業を構成銘柄として選定しています。



S&P グローバル社の「The Sustainability Yearbook – 2024 Rankings」において「Top 10%」に選定

HondaはS&P グローバル社のSustainability Yearbook 2024において、「Top 10%」に選定されました。S&P グローバル社は経済・環境・社会の側面で評価を行い、とくに優秀なサステナビリティ先進企業を選定し、「Sustainability Yearbook」に掲載して表彰しています。

2024年は62のセクターで世界9,400社以上を対象に評価を実施し、759社が選定されました。

※ DJSI : Dow Jones Sustainability Indices (ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス) の略。

Hondaが属する「Automobiles」セクターでは、「Top 1%」1社、「Top 5%」2社、「Top 10%」2社が選定されました。



CDPの環境情報開示において最高評価の「気候変動Aリスト」企業に選定

2024年2月、Hondaは、環境情報開示における国際的な非営利団体であるCDPにより、気候変動分野への取り組みと、情報開示の透明性が認められ、最高評価となる2023年度の「気候変動Aリスト」企業に選定されました。

CDPが定める「気候変動」「フォレスト」「水セキュリティ」の3分野に関する質問書に従い各企業が環境情報の開示を行います。CDPは、企業が開示した情報に対してAからD-の8段階のスコアで評価し、とくに優れた取り組みを行っている企業を「Aリスト」に認定しています。

同時に公表された水セキュリティは「B」評価、フォレスト（畜牛品・木材）は「C」評価でした。

